

稲垣舞



第二期HIRAKU-Global教員

渡 航 先: カナダ、スウェーデン、ニュージーランド
研究機関: モントリオール(カナダ)、ウプサラ大学(スウェーデン)、
ロトリア(ニュージーランド)
期 間: 2022年9月26日～10月7日(カナダ)
2023年6月14日～24日(スウェーデン)
2023年9月4日～10日(ニュージーランド)

2020年、徳島大学大学院医歯薬学研究部(薬学域)の助教に着任。学部生時代からテーマとしてきた「女性のヘルスケア向上」を目標に、脳科学の視点を取り入れながら、妊娠期特有の臓器・胎盤に着目し票遣。

伝えることを恐れず、自分や研究に新しい視点を。

自分を知ってもらい研究を動かす

2022年の秋、カナダ・モントリオールへと旅立った稲垣先生。目的は共同研究をしている研究室を訪問するためだ。ラボがあるのはモントリオール臨床医学研究所(IRCM)。近々発表する論文の打ち合わせを行い、新たな実験手法についても学んだ。

「私たちの研究では脳血管に注目していましたが、モントリオールのラボは神経に焦点を当てて、培養方法も全く違っていたため、培養の技術について情報交換を行いました。今後の研究では神経にも着目し、アプローチ方法を広げていきたいと思います」

さらにIRCMのセミナーでは徳島大学での研究成果について発表。講演後に話を聞きに

来られる方もいて、「この方向で研究を進めていける!」と手応えを感じたという。また、たくさんの方に自分の研究を知ってもらうことで、共同研究などの話が一気に動き出すこともあるそう。実際、2023年に参加した脳血管生物学会議(CVB2023)で発表したところ、偶然学会に参加していた日本人研究者から、自分の技術



セミナーで発表する様子



IRCM内にて



と融合させて新しい研究ができないかと声をかけられたそう。

他にもこの会議では、CVB2023の組織委員であるスウェーデン・ウプサラ大学の研究者と意見を交わし、数カ月の研究滞在についても相談した。その結果、2024年春に実現している。

ブレイクスルーをもたらす、異なる視点

この度の海外渡航における一番の成果は、異なる視点に触れたことだという稲垣先生。

「研究でブレイクスルーを起こすには、やはり異なる視点が必要になると思います。例えば、私自身の専門領域である薬物動態学の視点にとらわれていると、研究の方向性も凝り固まってしまいます。しかし違う分野からアドバイスや指摘をもらうと、新たな気付きが生まれ、それがアイデアにつながることもあります」

実は海外で講演を行った際、聴衆の多くはバイオロジーなど、違う分野の研究者だったそう。分野が違う方からも興味を示してもらえ、盛んに質問も受けて、とても刺激になった

という。

異なる視点としては、HIRAKU-Globalプログラムにおける交流は共同研究につながらなくても、先生に大きな刺激をもたらしている。

「同世代のがんばっている先生方の存在は大きな励みになりますし、研究で直接関わらない先生でも、その取り組みは研究の発想を切り替える参考になっています」

最後に、海外の学生から日本の研究環境について多くの質問を受けた稲垣先生は、次のような気付きを得たそう。

「欧米の研究室には、テクニシャンというルーティンワークを担ってくれる技術補佐職があります。時間の使い方も含めて、日本との違いを実感させられました。同時に日本の研究者が、日本を拠点に国際的に活躍するにはどうすればいいのか。視点を海外に向ける重要性をあらためて考える機会となりました」

自分の視点は、自身が立つ場所にとらわれる。新しい気付きには、海外を含め異なる視点を積極的に取り入れることが大切だ。